

## 平成 30 年度 第 4 回 帯広市学校給食センター運営委員会 議事概要

日 時 平成 30 年 12 月 20 日 (木) 10:00~11:42

場 所 帯広市学校給食センター 2 階 研修室

出席者 【委員】萩野委員、鎌田委員、大和田委員、渡邊委員、高橋委員、金尾委員、  
谷保委員、松本委員、立川委員、安田委員、秋元委員、耕野委員  
【事務局】中野部長、山下企画調整監、黒島学校教育指導室長、  
稲葉センター長、石田業務担当課長、泉係長、下森主任

### 【会議次第】

#### 1 開会

#### 2 議事

##### (1) 第 3 回運営委員会議事概要の確認

【委員】前回、米アレルギーの話をしたことが、多くの事例のようにとらえられていないか心配。

【事務局】本日の委員会終了後、事務局で整理し、皆さんに確認させてもらいたい。

##### (2) 給食費の改定について

###### ①「前回のご意見の確認」及び「前回追加要望のあった資料に関する説明」について

【事務局】資料 9「第 3 回運営委員会 主なご意見・ご質問の内容」、資料 10「精米と小麦粉の価格の推移」、資料 11「就学援助について」、資料 12「チラシ おしらせ 給食費の改定について検討しています」に基づき説明。

(委員からの質問・意見等)

【委員】保護者向けのチラシを配付して、何かリアクションはあったのか。

【事務局】特にない。

【委員】就学援助について、約 2%が未納者と聞いているが、就学援助費から給食費に支払われている金額はいくらくらいか。また、経済的な理由以外で支払っていない人の理由は何か。

【事務局】就学援助から給食費を支払っている人は、平成 29 年度で 2,484 人、金額は 1 億 1 千 520 万円程度となっている。経済的以外で給食費を支払っていない人の理由については、給食を申し込んでいないので支払う必要がないという考えの人もある。

【委員】義務教育なのにどうして払わなければならないのか、という考え方の人もいと聞いたことがあるが、そのような人へは、どのような対応をしてい

るのか。

【事務局】現年度分については、学校で集める仕組みになっているので、学校から催促してもらっている。過年度分は、給食センターでの対応となるが、督促や集金を行っている。

【事務局】いろいろな考え方の人がいるが、帯広市の制度として保護者に負担してもらっていることを、督促や徴収等を通じてお願いしている。

【委員】文科省から出されるガイドラインはどのような内容か。

【事務局】先生方の働き方改革の視点で、負担を軽減するため地方自治体で給食費徴収を一元管理するよう、今年度中にまとめると聞いている。

【事務局】電算システムを利用して徴収する仕組みを推奨しており、その内容を見て帯広市のシステムを検討していく予定でいる。

【委員】一元管理ができれば、いろいろな理由により給食費を支払ってもらえない人への丁寧な対応が出来るようになるのか。

【事務局】これまでも丁寧な対応を行ってきているが、一元化になっても、現年度分を給食センターで徴収することになるだけで、アプローチの回数が増える等の大きな変化は考えていない。引き続き、丁寧な対応を行っていく。

## ②「給食費の改定経過」「価格の考え方」及び「給食提供日数」について

【事務局】資料13「給食費の推移」、資料14「平成30年度北海道内各都市及び十勝管内町村の学校給食費との比較」、資料15「帯広市立小中学校の長期休業日の見直しについて」に基づき説明。

(委員からの質問・意見等)

【委員】陸別町は給食費無料だと思うが、表に記載されているのは何故か。

【事務局】保護者の負担はないが、かかっている経費を給食費として載せている。

【委員】無料にしている町村はどこか。

【事務局】陸別町、浦幌町、足寄町となっている。

【委員】帯広市では、無償化の検討はしたことがあるのか。

【事務局】帯広市では学校給食法に則って給食費を徴収しているので、検討した経過はない。

【委員】意見として、これを機会に今後、無償化の検討をしてほしい。

【委員】今回の諮問に対して異論は無いが、値上げの理由が食材の価格高騰によるという情勢変化になんとか追いついていこうという程度に感じる。農業大国、十勝・帯広だからこそできる、より充実した学校給食を提供していくという、あるべき姿をイメージしながら抜本的に学校給食をどうしていくのかという議論の場も必要だと思う。

【事務局】改定理由が価格高騰だけでなく、給食をどうしていくのかという視点も必要と考えている。運営委員会の場を使いながら、皆さんから意見をもらって考えていきたい。給食費を誰が負担するのかということと、給食のあり

方については別のものとして考えていく。

【委員】給食費の推移の資料で、平成3年度に給食費凍結とあるが、どのような内容か。

【事務局】平成元年に消費税3%が導入されたが、それを据え置いたと捉えている。

【委員】軽減税率が適用されず10%になった場合、給食費もその分あげるのか。

【事務局】現段階で想定していないが、軽減税率が適用されない場合は、保護者負担をお願いすることになると思う。

【委員】小学校の給食費が全道で32番目というのは、どうとらえたらいいのか。給食センターの努力なのか、食料王国だから低価格の食材を調達できるからなのか、他市に比べると見劣りするのか。

【事務局】帯広市はフライヤーという揚げ物機を導入しており、食材費のみで提供できるが、ある市ではフライヤーが無く、出来あがった物を購入しているため、給食費に差が現われている部分もあると考えられる。

【委員】外から見ると十勝は食料王国と見られており、その給食はどう見られているかとか、お金だけの問題ではない考え方も必要だと思う。

### ③「給食費改定の効果」及び「市民所得の推移」について

【事務局】資料16「給食費改定の効果」、資料17「平成30年度税務統計（抜粋）」に基づき説明。

（委員からの質問・意見等）

【委員】今回の給食費改定は、長年に渡り食材価格が上昇してきたので、その影響を受けて質的な劣化を元のレベルに復元する程度になるのではないかと感じるがどうか。

【事務局】ご指摘のとおりだが、献立の工夫や調達の工夫により効果が現れるよう取り組んでいく。

【委員】伝え方の問題かもしれないが、工夫してほしい。

【委員】食材費の高騰分を上げるのは仕方ないと思う。実際に献立を立てるのは栄養士だと思うが、栄養士的には改定の効果をどのように考えているのか。

【事務局】これまでも年間予算の中で、例えば地場産野菜をどれくらい使えるかということを考えてやってきている。帯広は他町村より多く使っていると思っている。献立の工夫や、メリハリ、行事食を考えながら、献立を立ててきた。副食費が圧迫されてきた分が平成27年度レベルになるのであれば、例えば高価な地場産の牛肉や長芋なども使えるようになることを期待している。

【事務局】今回は副食費が圧迫されている分の価格改定を諮問したが、改定額が妥当かというところ難しいところ。今までも食材価格が高騰する中、いろいろな工夫をしながら給食を提供してきた。地産地消、行事食の提供等の幅が狭まってきたが、給食の役割を達成するために、もう少し余裕を持った形で運営させてほしいと考えている。実際にどんな給食を提供できるのかという

部分については、皆さんからの意見を参考に検討していきたい。

- 【委員】保護者が一番望むことは安全安心である。そのためであれば、多少の値上げは理解できる。
- 【委員】業者からの食材の提供がある場合もあると聞いたが、しょっちゅうあるものではないと思うので、栄養士的には今回の値上げ額で大丈夫なのか。もっと上げてほしいのではないか。
- 【事務局】献立を立てる上で、やはり地元のものが安全であり、旬のものは価格が下がって使いやすかったりするので、できるだけ旬のものを使い、価格とのバランスを考えて献立を立てている。あとどれくらい上げればいいのかと言われると難しい。
- 【委員】小学校、中学校時代の食事が、大人になっても忘れられない味になってほしいと思っている。安心でおいしい食事を目指すチャンスだと感じている。

#### ④「答申のまとめの方向性」について

(委員からの意見)

- 【委員】これまでどおり安全でおいしい給食を提供していただきたいので、値上げで良いと思う。
- 【委員】給食費は受益者負担、自分が食べたものは自分で払うのが原則だと思う。無償化している自治体は政策で行っているの、そこを踏まえた上での考えが必要と思う。平成27年度に戻るだけという考え方もあるが、現状よりは地産地消の推進やバリエーションの部分でできることが増えると思う。今回の改定は苦渋の決断だと思うし、資料も読ませてもらったが、方向性は諮問どおりでよい。
- 【委員】今回の食材費の価格高騰に伴う値上げという部分では仕方ないのかなと思う。また、給食というのは毎年同じレベルを維持するものだと思うので、もっと頻繁に価格改定を行ってもよいと思う。
- 【委員】給食費単価の改定、給食日数増のいずれもやむなしと思う。食材費の受益者負担という原則はあると思うが、保護者の立場からすると給食というのは、選ぶことができない。選ぶことができないものの金額を上げるのは慎重にしてほしいし、自治体として子育て世代をどうしていくのかということも含めて考えてほしい。
- 【委員】給食費単価の改定、給食日数増については仕方ないと思う。これからは、理想と現実をどう伝えていくかが重要だと思う。安全安心を基本とした十勝ならではの楽しい学校給食を考えてほしいと思う。
- 【委員】給食費単価の改定、給食日数増のいずれも諮問どおりでよいと思う。要望として、今後、今回のように各家庭にチラシを配付する際には安心安全メールで周知してほしい。また、帯広市と道内の一番高い給食費の都市との差額を補助して、地産地消の推進や行事食の充実に充ててはどうかと思う。

- 【委員】給食費改定は仕方ないと思う。給食費が道内各都市と比べるとかなり安い  
が、フードバレー十勝を掲げる市として、低価格でも安全でおいしい給食  
を作っていてほしい。家庭内で上の高校生の子が下の中学生の子にその  
日の給食の献立を聞くことがあり、子どもにとって小中学校の思い出に給  
食の占める割合は大きい。
- 【委員】給食費単価の改定、給食日数増はやむなしと思う。将来に向けて、思い出  
に残る帯広らしい給食を目指してほしい。全国一の給食を目指せる地域だ  
と思うので、機会があればそういう話もしていきたい。
- 【委員】いろいろな話を聞いて、改めて感謝している。給食費の値上げについては  
賛成する。
- 【委員】給食費単価の改定、給食日数の増については、諮問どおりでよい。意見と  
して、本日のような有意義な議論を今後も続けてほしい。また、安全安心  
でおいしい十勝らしさあふれる日本一の学校給食を提供するという観点か  
ら、価格の決定については、より柔軟に検討してほしい。
- 【委員】給食費単価の改定、給食日数の増については、了解できる。日本を代表す  
る農業地域だからできる給食の目指す方向性があると思うが、そういうこ  
とを触れつつ答申書をまとめてほしい。
- 【事務局】皆さんから、目指すべき給食とかフードバレー等のキーワードの意見をい  
ただいた。これらをまとめて次回に提出したい。

### (3) その他

(委員からの意見・要望等)

- 【委員】資料の送付については、メールを活用してもらってもかまわない。
- 【事務局】検討させてもらう。
- 【委員】学校給食費の徴収方法について、郵便局からしか納められないと聞いたこ  
とがあるが、どのようになっているのか。
- 【事務局】引き落とし手数料は保護者に負担してもらっているが、農村地区の農協か  
らの組勘を除くと、郵便局は1回10円で他の金融機関より安いことから、  
使っている。

#### ・ 次回の開催予定について

【事務局】次回の開催は、平成31年1月28日月曜日を予定している。

#### ・ 平成30年度学校給食嗜好調査の結果について

【事務局】昨年度に続き、学校給食についての嗜好調査を実施した。結果については、  
各学校への配付やホームページでの公開をする予定となっている。

#### ・ 12月クリスマスメニューの紹介（北海道全調理師会帯広支部からの提案）

【事務局】北海道全調理師会帯広支部が、今年の9月27日木曜日に北海道ホテルで行  
われた「美味とかち大収穫際」の中で「学校給食～新たなメニューの思い

出づくり～意見交換会」にて提案されたメニューを学校給食で提供することとなった。メニューとしては、主食の「いろいろ豆のピラフ」、主菜の「鶏じゃが～トマト・カレー風味」となっている。12月26日水曜日、稲田小学校に北海道全調理師会帯広支部から3名訪問し、児童と一緒に給食を食べる交流給食会を実施する。

・1月の学校給食週間特別献立について

【事務局】1月24日から30日が全国学校給食週間となっており、帯広市では地場産食材を使った献立と国内姉妹都市の特産物を使った献立を提供している。今年度については、大分市の特産物を使った献立や郷土料理を提供する予定となっている。

(委員からの質問・意見等)

【委員】学校給食週間では、子どもたちが、その日のメニューが姉妹都市大分市の給食だとわかって食べているのか。

【事務局】給食だよりに掲載しており、学校でも周知していただいている。

【委員】全調理師会のメニューは、1回で終わりなのか。せっかく子どものために考えてくれたメニューなので、もったいないと思う。

【事務局】1回で終わりではなく、今後も提供していく予定となっている。

### 3 閉会